

第4章 環境市民会議の取り組み

地域の環境をよくするためには、市民・事業者の皆さんの取り組みが重要となります。

この章では、環境市民会議の皆さんが各地区においてそれぞれ調査した環境の現状と、一年間の活動や取り組みを報告します。

皆さんが住んでいる地区の身近な環境について、「知る、考える、行動する」きっかけとなれば幸いです。

環境市民会議とは？

市内を6つの地区に分け、その地区の環境が良くなるよう自ら活動する団体です。

市内在住・在勤・在学の方であればどなたでも参加できます。環境保全の取り組みは、一人ひとりの行動が最も重要ですが、その地区の取り組みの推進力となるのが環境市民会議となります。

環境基本計画では、地区ごとにめざす環境の姿を定めるとともに、地区の環境の現況・課題を整理したうえで、多くの課題から絞り込んだ重点課題と、その解消に向けた重点目標、重点取り組みを「地域行動編」として示しています。

この「地域行動編」は、環境市民会議の皆さんによって策定されたものです。

地域行動編の目標を達成するため、その地区内の町会・自治会や事業者、各種団体との連携を図りながら活動しています。

【環境市民会議6地区の区域】



中央地区環境市民会議が調べた環境の現状

浅川では、きれいな水を好むギバチやジュズカケハゼなど数多く確認されるようになり、川で遊ぶ親子や水辺で憩い・安らぐ市民の光景も多く見られようになりました。六本杉公園の湧水池では、湧水量の維持・強化の為の取り組みが現在進行形でなされています。省エネ活動においては、多くの会員が省エネ普及活動に参加し、啓発活動を行いました。

各種イベントでは、環境コーナーを設けクイズを出題し、「今年は満点をとりたい」などリピーターの市民から声をかけていただくこともあり、市民の意識の向上を実感しました。

「継続は力なり」です。このような意識の高い市民に活動に参加していただけるように、中央地区環境市民会議もより前進していきます。

■ 環境フェスティバル、環境パネル展への参加

2011八王子環境フェスティバルと第2回八王子市環境パネル展では、各部会が協力して出展し、多くの市民に中央地区環境市民会議の取り組みを紹介することができました。

■ 河川環境

浅川巡回パトロールを積極的に実施し、会員に内容を報告すると共に、必要により関係行政へ報告と要請を行いました。

重点課題である浅川の清掃活動は、河川敷の水辺を重点に2回実施し、全国一斉水質調査や各種イベント実施の際に堤防や橋の下などを中心に清掃を行いました。また、一般のグループで清掃活動を行っている光景も見られ、より良い水辺環境の確保に関心も高められつつあります。河川環境は一地区だけで解決するものではありませんが、これからも誰もが親しめる浅川であるよう地道に努力していきます。

6月5日に行われた全国一斉水質調査では、浅川大橋と鶴巻橋真下の地点で水質調査を行いました。水質は年々改善さ



浅川の清掃活動



浅川ふしぎ探検

れ、2地点ともCOD値は1と良好な状態でした。

9月10日に第7回自然体験講座「浅川ふしぎ探検」を企画し、参加者数は22年度の約2倍の親子あわせ94名で大変好評でした。「浅川に初めて入った」「水がきれいになった」などの感想が多く聞かれ、きれいになった浅川の実態認識と水辺環境への関心におおいに寄与したイベントとなりました。これからも継続して実施します。

八王子浅川子ども水辺協議会への協力については「ウグイの放流イベント」(第1回5月6日、第2回5月10日、第3回6月7日、第4回6月22日)にスタッフとして延べ20名が参加しました。8月7日の「2011ガサガサ探検隊」に10名がスタッフとして参加しました。ウグイの放流を契機にかわ部会独自に取り組んでいるウグイの産卵場の造成を浅川大橋下流(6月18日)に行いましたが、成果を確認することができませんでした。

小学校環境教育(2校)の支援活動には延べ28名がスタッフとして参加しました。

■ 大気汚染測定

大気汚染の測定を10ヶ所で行ったところ、23年度は環境基準の値を超える場所はありませんでしたが、これまで行った15回の測定では、国道16号バイパスや20号の一部で環境基準の値を上回ったこともあるため、今後も測定を継続していく必要があります。

■ まちのみどり・まちの美観

自主企画のまちなかウォッチングは実施できませんでしたが、市主催の湧水めぐりへの参加、六本杉公園湧水保全協議会への参画を通じて、市街地の自然環境やまちづくりに係る取り組みを体験しました。

環境フェスティバルや市民センターまつり、環境パネル展などにおいて、グリーンマップの配布や展示を行い、まちのみどりや空間の大切さについて啓発を行いました。

市役所前通り及び元横山公園アドプトに参加し、支援を行ってきました。



大和田市民センターの環境コーナー

■ ごみの減量・資源循環

7月の中野七夕まつり、10月の子安・台町・大和田市民センターまつり、11月のいちょうまつり、1月の西八ハイツ新春餅つき会に環境コーナーを設け、クイズを通し正しいごみの分別を理解していただくとともに、ごみが出にくい生活を紹介しました。

「エコひろば」では定期的に清掃工場見学ツアーやプラスチックの分別体験講座を行い多くの市民が参加して正し

いごみやプラスチックの分別を理解していただきました。

「エコひろば」の実行部隊である「もったいない委員会」に参画し、分別お悩みクイズ4号を制作して市民に配布した。

■ 地球温暖化防止

4月に温暖化防止センターの運営が開始され、ここを拠点に、省エネ教室の開催や省エネチャレンジ2011の講師として参画し、川口西部町会・上大和田町会で具体的な省エネ行動を紹介しました。



「ツバルと島に暮らす人々」写真展



エコひろばでの省エネ教室

11月には温暖化防止センターの企画として、南の島ツバルを撮り続けている写真家遠藤秀一さんの「ツバルと島に暮らす人々」写真展を企画し、みんな集まれ委員会の協力により開催しました。

北部地区環境市民会議が調べた環境の現状

北部地区には加住北、南丘陵に挟まれた谷地川が流れており、水質は19年度の下水道整備の完了に伴い少しずつですが改善され、上流部のきれいな水に棲むカワセミやサギ類、カモなども下流域で見られるようになりました。また、みどりの拠点である滝山公園や小宮公園、粟の須緑地を関係団体と協力して保全しています。なかでも、滝山城跡においては、城郭の歴史を探り、環境保全を行う目的で下草刈を行っているほか、独自に作成したガイドマップを使って啓発活動を継続しています。

■ 水

八王子の最も北側を流れる谷地川は、この地区の中央を横断する全長12.9kmの河川です。

谷地川の水質（COD値、pH、電気伝導度）と水生生物の調査を2ヶ月に1回行っています。水質の改善や20種類以上の水生生物が確認されるなどの成果が表れてきています。



ホトケドジョウ



ドジョウ



カワトンボのヤゴ

■ みどり・生き物・景観



滝山城跡を散策

「滝山城跡群・自然と歴史を守る会」と共同し、毎年滝山城址の景観を保護するための「やぶ払い」を行うほか、遺構と自然の調査を行っています。

また、滝山城跡は八王子のルーツでもあることから、歴史的価値を広く市民に知っていただくため、自然体験講座や探索会なども毎年行っています。

さらには、本城址に来られたから方々に、城跡を理解していただくための「新規案内板設置(15ヶ所)」に関して、場所の設定、整備、完成記念散策ツアーのためのルート確認等を行いました。



滝山城址の新規案内板



滝山城址より、多摩川、昭島方面を眺める

■ 大気

簡易カプセルによる NO_2 の測定を、国道16号バイパスや滝山街道などの幹線道路を中心に30地点以上で、夏・冬2回実施しました。交通量の多い幹線道路では環境基準を上回っているところも見られるなど、まだまだ改善の必要性があると思われます。

大気測定結果は八王子大気汚染測定ネットに報告し、各環境市民会議や独自に測定されている市民の方々のデータと比較しています。



環境教育支援の様子

■ 環境教育

9月に環境教育の支援として市立小宮小学校を対象に、多摩川の水質や水生生物、植物や鳥など川の様子を調べる多摩川自然体験学習を支援しました。(支援者22名)

■ その他

八王子環境フェスティバルに参加し、北部地区の環境の状況を展示するとともに、地区の自然度を表す谷地川の生き物を展示しました。また、自然に触れ合うことをめざして花の苗の配布を実施しました。天候にも恵まれ、多くの来場者に啓発することができました。

また、以前作成したガイドマップを改訂しています。当地域に点在する史跡、名勝、自然資源を踏査し、気軽に散策するための環境マップ（散策マップ）を作成するための準備を行っています。



八王子環境フェスティバルでの展示

西部地区環境市民会議が關べた環境の現状

古来より発展してきた地域は、歴史・伝統文化が数多く残り、豊かな自然に恵まれ、多様な生態系が形成されています。近年は、大規模開発や農林業の高齢化と後継者不足で森林荒廃や農地の宅地化が急激に進み、恵まれた環境も大きく改変しています。

地域を流れる醍醐川、案下川、大沢川、城山川、小津川、山入川、川口川は浅川の重要な源流として位置付けられていますが、自然地の保水力や浸透性が低下し、湧水の枯渇や河川流量の減少による瀬切れの発生箇所が目立つようになりました。市街化区域では生活排水が流入して河川の水質悪化が大きな問題になっていましたが、下水道整備と市民の環境意識が高まり、徐々に水質改善が図られ、清流が戻ってきています。山間部では不法投棄が繰り返され、地域一丸となって撲滅に向けた地道な活動が続けられています。市街地の道路や河川でもポイ捨てが目立ち、町会・自治会、事業者、市と更なる連携が必要となっています。

懸案だった上川町産廃最終処分場予定地は市が土地を買収後、特別保護地域に指定して保全することになり、市と地域で今後の取り組みが検討されています。そうした反面、物流拠点など大規模な開発が計画され、多くの課題が山積しています。

■ 自然体験講座「元八王子の歴史を訪ねる」「早春の天合峰から川口郷を眺望」

秋から早春にかけ、元八地区と川口地区で開催されました。自然体験講座は何気なく通り過ぎてしまうような場所で新しい発見に出会い驚かされます。地域の知らなかったことを知る喜び、大切な場所を次世代に伝え残していく活動は人気講座になりました。

西部地区には豊かな自然と知られざる歴史や文化遺産が数多く埋れています。今後も活動を通して紹介を行っていきます。



天合峰の手前、金刀比羅神社前

■ 学校・地域と連携した活動（川口地区）

毎年、総合学習の時間を使って行われる農業体験（田植え、稲刈、脱穀、収穫米で餅つき）は年間行事として定着してきました。自然の中で体験する米作りは子供たちには非日常的な時間です。土の匂いや感触、生き物の種類、稲の生長する様子、薪割り、餅つき体験など、全身で感じる体験は時間の過ぎるのも忘れてしまいます。子供たちの自然の中で輝く躍動的な姿がいつも印象的です。

川口地区の十二社弁天池の改修工事が竣工しました。素掘りの池は地域の里山景観を代表する場所でしたが、護岸が崩れ、水中に落ち葉などが堆積して汚れ、特定外来種のアメリカザリガニやウシガエルが繁殖が確認されました。

22年に市・地元町会・環境市民会議による弁天池協議会が発足して改修工事に向けた取り組みや調査活動が行われ、竣工後は地域の憩いの場所として保全されています。



農業体験



薪割り体験



改修後の弁天池

■ 川口川の水質調査と地域井戸の実態調査（川口地区）



井戸水の水質調査

川口川源流域までの15kmの区間、年2回15ヶ所で定点観察を実施しています。水質や排水の実態、河床の水涸れ（瀬切れ）変化などを調べています。渇水期には中・上流域で慢性的に河床の水涸れが発生、豪雨時は中・下流域で河川水位が急増する傾向が見られます。宅地化の進行と農地の減少、丘陵地の開発などによる影響で、雨水浸透性の低下や湧水の減少などが考えられます。

3年前から川口地区連合町会（17町会・自治会8,189世帯）と連携して地域井戸の実態調査を行いました。その結果、現存する井戸は417基あることが確認され、その井戸の中から地域別に12基の井戸水について簡易水質検査を実施しました。調査結果から下流域では地下水汚染が進んでいる様子が明らかになりました。防災面で地域井戸が果たす役割は重要であるという視点で学校や公共施設などに井戸を新設する市も増えてきています。今後は安全・安心を担保する積極的な取り組みが求められます。

■ マイバック普及に関する実態調査（川口地区）

マイバック持参率調査を店舗と連携して年1回店舗で出先調査を行っています。持参率は、年々増加を示し、22年度は51.19%に達しました。調査活動とマイバックの普及活動を継続することで市民意識の変化が読み取れます。しかし、レジ袋廃止には、市・事業者・利用者の課題解決に向けた取り組み、そして隣接する市町村との連携・情報交換の体制づくりが急務となっています。

■ 小田野中央公園の整備活動（恩方地区）

公園まちづくりの会の環境保全部が中心になり、定期的に草刈や樹木の剪定、トイレ清掃やごみ拾いなど、年間で延べ300人以上が参加しています。ランドゴルフやバードゴルフで利用する際、草刈やトイレ清掃などをお願いしています。小学生たちには季節の花で花壇をつくり、自分たちの公園と言う意識付けを進めています。



冬期剪定作業

■ 大沢川・城山川のクリーン活動（元八地区）

大沢川は、不法投棄やごみのポイ捨てなどによる漂流ごみが多いことから中流域の柳橋から恵橋までを年4回（3月、6月、9月、12月）ごみ回収を行っており、23年度からは、大沢川と合流している城山川（不動橋～めぐみ橋）の漂流ごみの回収を流域町会との協働作業で交互に実施し、ごみ15㎡を回収しました。

なお、6月には全国一斉水環境調査に20年度より連続して参加し、大沢川、城山川の水質検査としてCODパックテスト（D）を実施しました。この調査は今後も継続していく予定です。

■ ホタル保存会の活動（元八地区）

城山小学校付近でホタルが発見されたことをきっかけに、環境市民会議の主導で18年に「城山小地区ホタル保存会」を発足させました。以来、主な活動としては地域との協働で毎年5月に川掃除、6月にはホタル講座と鑑賞会を開催し、地域の子どもたちに自然を大切にする意識を啓蒙しています。

23年度は近隣の親子120人が参加し、ホタルが生きられる環境について知識を深め、ホタルの飛翔を堪能しました。

今後も、地域の貴重な財産であるホタルの棲める環境を守っていきたいと考えています。



ホタル講座

西南部地区環境市民会議

西南部地区環境市民会議が調べた環境の現状

高尾山を中心とする豊かなみどりに恵まれた地区ですが、町田街道などの幹線道路の大気汚染、一部河川の汚れ、山間部における不法投棄などの問題を抱えています。特に最近、高尾山の入山者が大幅に増え様々な環境問題が発生し、貴重な自然が失われる恐れがあります。また、高尾山ＩＣの開通に伴う中央道と圏央道のジャンクション付近や周辺への環境への影響が懸念され、騒音、大気汚染及び動植物などの自然環境を見守っていく必要があります。

地域全体の取り組みとしては、地域を一つの博物館と考える『エコミュージアム構想』に基づき「地域の宝の掘り起こし」や里山保全活動では池の沢館町緑地をベースに蛍観察会など各種体験講座の開催、地域の小学校を対象に環境教育支援に取り組んでいます。

また、開設が遅れていますが、旧高尾自然科学博物館跡地の「高尾の里拠点施設」の設計・運営等に対して、市へ積極的に働きかけています。

地域の啓発活動にも力を入れており、市民センターまつりでの展示やいちよう祭りでのごみ分別指導など、積極的に進めているところです。

■ 高尾山の保全

毎年定期の高尾山自然調査で指標樹木の樹勢を観察・記録して、年ごとの変化を監視しています。２３年度は６号路から１号路、蛇滝口にかけての指標樹木２２本（６月１０日）、シモバシラ観察会（１月５日）、１号路から４号路、蛇滝口にかけての指標樹木１５本（３月１６日）の調査を行ないました。１本が枯れ、また特定場所の１本の枯れが顕著です。

また、高尾山への入山者が急激に増加し、人工物増加の問題が顕著となり、また、自然への悪影響が心配されます。環境フェスティバル、環境パネル展にて高尾山の環境保護を訴えました。



高尾山自然調査

■ 地域の宝起し

地域の宝を掘り起こし、再認識しようと自然体験講座（１０月２日）を開催しました。一般市民３０名が参加し、高尾から狭間、長房、散田までの自然・歴史、文化遺産を観察しました。前もって下見を行い、コース案内図と地域の宝の写真、説明文を整理して、当日資料として参加者に配布しました。



地域宝起しウォーキング

■ エコミュージアムマップ

高尾編、市街編とも主に地区内に自生する植物を大幅に追記した改訂版を１０００部印刷し、地域の宝の再認識の資料として市民に配布しました。

■ 高尾の里拠点施設

２７年度に開設予定の「高尾の里拠点施設」に関して高尾の自然科学博物館を考える会と合同で市と協議を５回行い、「展示と運営協議会に関する要望書」と「展示に関する提案書」を提出しました。

■ 里山保全

「池の沢に蛍を増やす会」と協働で6月25日に企業の従業員・家族と6月26日に一般市民と蛍観察会、10月14日、12月17日に企業の従業員・家族と里山保全体験講座、3月20日に市民と野鳥観察会を池の沢にて開催しました。延べ会員48名、一般176名が参加しました。里山調査は計画のみで終わってしまいました。



里山保全体験講座

■ 流域の水質調査

西南部地区20ヶ所の水質検査を始めて23年度は10年目になります。当初は平均のCOD値が4～6であったが、近年はCOD値が0～2（きれい又はやや汚れている）と、地区の水質はかなり綺麗になっています。しかし、まだ川をゴミ捨て場としている一部の人が見受けられます。

全国一斉水質検査にも9ヶ所を登録していますが、COD値は2以下になっています。

南浅川・案内川・小仏川・湯殿川・山田川の数値は安定しています。ただ、湯殿川御霊神社上流地藏橋までの護岸工事が進行中で、蛍やホトケドジョウの姿が見られなくなっています。古木の茂った湯殿川の姿はセメントの護岸と石ころの川底で白一色に変わってしまいました。

■ 大気汚染測定

西南部地区で汚染度の一番高いのは国道20号から高尾駅南口四つ角に至る町田街道です。測定開始当時（15～19年）の二酸化窒素は0.06ppm前後でしたが、近年（20年～）は0.04～0.05ppmに落ち着いています。それは道路の拡張と走行区分帯の改善による渋滞の解消によるものと考えられます。

西八王子駅以西の国道20号は0.045ppm以下で、むしろ最近山王坂下付近が0.05ppm以上を示しています。

23年度は23ヶ所の平均数値が0.03ppmと新記録の数値になりましたが、当日の東京地方全体の降雨の影響も考えられます。幹線道路であっても0.04ppm以下の実現が期待されています。

■ ごみ減量

ごみ量の削減に関する知識や情報のパネルを更新し、横山南市民センターまつりや環境フェスティバル、環境パネル展等で啓発活動を行いました。

めじろ台南公園(約2千坪)では、堆肥槽を一基増設し、老人会や近隣の協力で落葉を集め一年がかりで堆肥化し住民に配布することで、家庭でできる堆肥化の啓発を行っています。

レジ袋の削減の取り組みとして、市と協力し、スーパーマーケットで行われた「マイバック店頭啓発活動」に積極的に参加しました。

八王子いちょう祭り環境委員会を主管し、都立八王子桑志高校の生徒210名や大学生ボランティアを指導して28万人の来場者と300余の出店者のごみ分別意識の向上に努め、資源物の回収を行いました。

さらに、ゴミの不法投棄の実態調査や日常生活の中で楽しくごみ削減が経験できる「エコレシピ」の実習も継続実施しています。

■ 環境教育支援・地域環境診断

市内の9の小学校の環境教育支援に取り組み、地区では4校を当会の会員（延べ人員101名）が中心となり支援しました。地域環境診断として河川の水質、水生生物、貴重な植物や蛍の生態などを継続して調査しました。

東南部地区環境市民会議が調べた環境の現状 「ふるさとの八王子を美しい街に！」

東南部のみどりは、周辺域での小規模開発によりみどりが減少し、手入れの行き届かない放置された里山が見受けられます。4月の浅川・湯殿川クリーンデーは東日本大震災の影響で中止となりましたが、東南部の浅川水系の河川水質は、山田川下中田橋及び浅川中央線上流を除いてCOD値2～3を示しており、家庭における更なる水質浄化や河川へのゴミのポイ捨てを止める啓発を続けていく必要があります。街の美化に多少でも貢献しようと定期的に北野駅周辺の道路の清掃活動を行っています。美しい八王子をつくる会主催の一斉清掃デーにも参加しました。湯殿川の定期清掃にも取り組んでいます。大気汚染として東京都一斉NOx測定に2回参加しましたが、16号バイパスでは数値の悪い場所が多く今後とも注目していく必要があります。

■ 環境学習・啓発活動

4月の浅川・湯殿川クリーンデーは東日本大震災の影響で中止となりました。6月の環境フェスティバルは、ごみ分別・きれいさ評価、大気汚染測定、ケナフで地球温暖化防止、東南部水質調査及び自然体験講座のパネル展示やケナフの苗／種の配布、丸太のコースターお絵かき教室を行い大盛況でした。



環境フェスティバル お絵かき教室

8月の夏の浅川自然体験講座（竹イカダで川下り、生き物観察）子ども22名、大人21名、スタッフ22名、計65名と大盛況で、参加者からは、「ただ近くを通るだけの川でしたが、今日の体験で本当に身近なものになりました。浅川にも色々な生物がいることを知りました。イカダ作りを体験させて頂き、自分たちに作れることが分かり感動しました。」「とても楽しかったです。浅川に入れて気持ちよかったです。」「生物がいっぱいいるんだなと思いました。」との感想をいただきました。また、9月に宇津貫緑地の自然観察を行い、参加者からは、「ゆったり歩けた一方、中身の濃い内容と感じた。春に咲く花が多い、ホタルが見られるなどの話を伺い、季節ごとにこの山を歩きたい。」「詳しく花の名前を教えていただきありがとうございました。多様な植物相に驚きました。」との感想をいただきました。

10月の由井市民センターまつり、11月の北野市民センターふれあい祭りで啓発を行いました。会員の環境学習では、6月のパソコンリサイクル見学、2月の戸吹プラスチック資源化センター見学及び3月の東京農業大学総合研究所見学を行い環境についての学習を深めました。



竹いかだで浅川下りと川の生き物調査



親子で川の生きものと全国一斉水質調査

■ 河川・水質

6月（全国一斉）と12月に14ヶ所の水質調査を行いました。浅川、湯殿川、兵衛川、山田川の水質は少しずつきれいになってきています。6月の浅川での「親子で川の生き物と全国一斉水質調査」や8月の「浅川竹いかだ遊びと川の生きもの調査」を行い、きれいな川・親しみやすい川・遊びたい川を実感してもらいました。7月と12月に湯殿川クリーンデー、9月にみんなの川の清掃デーを行い、川を美しくする活動に大きな成果を上げました。

■ みどり・歴史景観

片倉台の皆さんと絹の道の拠点の大塚山公園アドプトによる清掃や御殿山尾根道を美しくする活動を行っています。絹の道や小野路道ハイキングマップを配布し、市民の方に自然と歴史にふれあう散策を楽しんでいただいています。



湯殿川清掃活動－12月

■ ごみ分別・収集・リサイクル

市のごみ組成分析に立会い、データを分析、分別徹底の啓発資料を作成しています。資源化可能物の混入率が5%以下になることが望ましいと思っていますが、現在入手したデータから市全体としては、可燃物の資源化可能物の混入率は22年度の18%から12%と良化していますが、家庭系可燃物の地域別資源化可能物の混入率は8～18%と地域によりかなりばらついています。良化したのは、プラスチックの資源化拡大と可燃・不燃の分別の変更、戸別収集が始まった影響だと考えます。22年10月からプラスチックの資源化拡大と可燃・不燃の分別の変更、戸別収集が始まりました。市のデータによると、かなりの分別違いが見られます。まだ分別方法の変更に慣れていないということからくるものと思われます。市、エコひろばと協力して分別の啓発活動をしていきたいと思えます。重点的な調査対象を決めて資源化可能物の混入率を調べ、そのデータを有効に使うことはごみ減量・資源化に大いに役立つと思われます。

■ ごみのポイ捨て・都市の美観

地区内の駅（JR片倉・みなみ野・北野・長沼・山田・京王片倉）周辺道路19ヶ所でのきれいさ評価（ごみ拾い・分類・カウント）を8年間続けています。その結果、データ集のようにごみは減少しています。さらにポイ捨てたばこが減少することを期待して、11月には北野駅周辺で市と町会と連携して喫煙マナーアップキャンペーンを行いました。

今後、地区の中心である北野駅周辺が路上喫煙禁止地区に指定され、たばこの吸い殻の落ちていないきれいな街になることを期待しています。

ごみは植えこみや水抜き穴の中など見えにくいところに目立ちます。たばこの吸殻は路上にもまだまだ捨てられています。東南部ではきれいさ評価に加えて毎月1回第4月曜日の朝9時から街が美しくなることに多少でも貢献すべく北野駅周辺のごみ拾いを行っています。

■ 大気・騒音・地球温暖化防止

年2回のNOx簡易測定を実施しました。また、環境フェスティバルでは地球温暖化防止に役立つケナフの苗や種を配布し、各家庭で育ててもらい環境への市民参加の場づくりを行いました。さらに節電・省エネの講演会を長房小学校と片倉台自治会で行いました。

■ 環境市民会議のあり方について

11月に「東南部／行政／NPOの課題と取り組み」についてまとめ、それを踏まえて2月に24年度の取り組みについてまとめました（下記）。

- ☆ 町会・自治会など他団体との交流・協働
- ☆ 地域の環境保全活動
- ☆ 学校支援
- ☆ 省エネ・節電講座提供
- ☆ 地域の自然と歴史を学ぶ自然体験講座
- ☆ 環境勉強会・見学会
- ☆ 地域の環境を良くする啓発活動
- ☆ 環境マップ作成・環境データの調査

東 部 地 区 環 境 市 民 会 議

東部地区環境市民会議が調べた環境の現状

東部(由木)地区の北側は多摩丘陵が東西に走り、また、南側は多摩ニュータウンとして、地域の特色としてのみどりの景観を、それぞれ形成しています。

この地区の生態系は多摩丘陵の里山を維持することで守られています。多摩ニュータウンで最初に整備された、別所地区の面積19.8ヘクタールの『長池公園』に続き、堀之内地区の面積5.2ヘクタールの地域が、『堀之内寺沢里山公園』として整備され、現在、最後の開発が行われている隣接の「19住区東山地区」もみどりの保全を重視した計画で進められています。

さらに、堀之内の里山について、都の自然保護条例による里山保全地域に指定され、みどりの保全が進んでいます。

大気と河川の水質については、本市全地区に係わることであることから、関係団体と連携してNO₂の測定及び大栗川・寺沢川・大田川の水質調査を継続しています。

■ 自然環境

23年度も、「多摩丘陵の自然を守る会」の協力を得て、春・秋に『自然観察会』を実施しましたが、22年度の春・秋のコースと場所を逆にして植物を楽しみました。

4月の自然体験講座は、野猿峠バス停に集合し、中山丘陵から由木西小学校を経て絹の道資料館までの自然観察を行い、10月の自然体験講座は、由木中央小学校前バス停に集合し、玉泉寺から平山城址公園を経て寺沢里山公園までの自然観察を行いました。



自然観察会（由木中央小前）



八王子市環境パネル展

また、21、22年度に計画して実施できなかった「由木地区の樹木めぐり」を、10月に南大沢駅に集合し、永泉寺までバスで行き、大塚山公園から絹の道資料館を経て一里塚・榎を見て、板木の杜公園から多摩美術大学まで樹木観察を行いました。

これらの活動を、「環境フェスティバル」や南大沢と由木中央の「市民センターまつり」、さらには八王子駅南口総合事務所の多目的スペースでの「環境パネル展」などを利用し、パネル展示して、市民に理解と協力をお願いしました。

■ 河川・水質

河川の水質調査は、6月5日に「全国水環境マップ実行委員会」や「浅川流域市民フォーラム」などと協力して、「大栗川」「寺沢川」と「大田川」の3河川で水質調査を実施しました。

■ 大気汚染

毎年、6月と12月の2回、都内全域におけるNO₂の調査は、23年度も他の環境市民会議と協力し、データの収集を行いました。

23年度の調査は、6月2日から3日にかけてと、12月1日から2日にかけての2回に参加しました。

結果の数値については、データ集に示しています。結果の分析には他のデータも必要と思われます。これからも、他の団体と連携を図りながらデータ収集を行っていきます。

■ 美化・ごみ・エネルギー

南大沢駅周辺の新たな発展、そして乗降客の増加に伴い、駅周辺の美化活動、禁煙活動にも関心が高まっています。その一環として、南大沢中学校と青少年対策南大沢委員会が中心になり、地元商店街の「元気な街“南大沢”協力の会」も加わり、年に3回の「クリーン・デー」を実施しています。



クリーン・デーでのガムはがし

駅前に設置されている「22基のフラワーポット」の植替えや水やりなどの維持管理を「南大沢みどりのサポーターの会」が中心になり、毎月2回の活動日に行っています。

また、ごみの不法投棄は、ゲリラ的に発生するので、不法投棄を減少させるためには、継続的な市民・事業者への啓発活動や市への提案が必要です。

なお、南大沢に「八王子バイオマス・エコセンター」が建設中であり、生ごみの堆肥化を含め、最新のごみ問題・プラスチック分別関連情報の展示・説明を行うと共に、「不法投棄場所」監視活動を続けています。



花壇の維持管理

■ 環境にかかわる実践活動

『市立学校の環境教育支援活動』として「由木東小学校」、「松が谷小学校」、「上柚木小学校」に対して、「エコひろば」との連携のもと、他地区の環境市民会議の協力を得て、大栗川、浅川などで実施しました。

また、『里山保全活動』は、長池公園では『長池里山クラブ』が「花と緑の愛護に顕著な功績のあった民間の団体」として「国土交通大臣賞」を受賞しました。

また「堀之内寺沢公園」でも『まちづくり里山楽友会』の活動が定着し、引き続き自然環境の保全と里山の継承活動が活発に行われています。

さらに、都の里山保全地区についても「宮嶽の谷戸の保全活動」が計画されています。



宮嶽の谷戸の保全活動

地域行動編評価一覧

23年度における環境市民会議各地区の活動実績に基づき、その地区の活動実績をその地区で総括的に評価したものと、その評価に対して環境推進会議で相互に評価したものを掲載しています。

<中央地区環境市民会議での総括評価>

浅川では、きれいな水を好むギバチやジュズカケハゼなど数多く確認されるようになり、川で遊ぶ親子や水辺で憩い・安らぐ市民の光景も多く見られようになった。

六本杉公園の湧水池では、湧水量の維持・強化の為に取り組みが現在進行形でなされている。

省エネ活動においては、多く会員が省エネ普及活動に参加し、啓発活動を行っている。

環境コーナーにおいては、今年は満点をとりたいなどとリピーターの市民から声をかけていただくこともあり、市民の意識の向上を実感した。

「継続は力なり」である。このような意識の高い市民が活動に参加していただけるよう、中央地区環境市民会議もより前進していくものである。

<環境推進会議での相互評価>

巡回パトロールや河川クリーン活動、又、ウグイの放流や自然体験講座など、河川での活動をはじめ、各種イベントでは、独自の「環境コーナー」を設けてのごみの分別など環境の情報提供など、継続した活動は大きな成果となってきていることから、引き続き取り組んでいただきたい。

また、省エネルギー教室やごみの分別体験講座など、本市の重要な取り組みの後ろ盾となっていることから、今後も積極的に協力していただきたい。

自ら「継続は力なり」と掲げられているとおり、引き続き活動の推進に努めていただきたい。

<北部地区環境市民会議での総括評価>

水と大気分野では継続的に測定を実施しデータを蓄積していることから、今後の環境を検討するうえで有効と考える。

みどりの分野では、滝山城跡の下草刈り、遺跡及び自然調査を、滝山城跡群・自然と歴史を守る会と共同で行ったほか、自然体験講座「道の駅八王子滝山から滝山城跡の散策ツアー」等、市民参加行事へ貢献できた。

少数の会員ながら22年度に引き続き、環境フェスティバルへの参加や市立小学校への環境学習支援など、啓発活動も活発に行えたことから、今後は、会員の拡充に努めたい。

<環境推進会議での相互評価>

定期的に行っている滝山城跡での下草刈りや除伐等の活動は、市民のみならず観光客にも大きく貢献していることから、引き続き良好な環境づくりに取り組んでいただきたい。

また、大気測定や水質検査で得られたデータについては、地域の環境の保全・改善につながるように活用していただきたい。

なお、会員の拡充については6地区共通の課題であり、市も、ポスターの掲出やチラシの配布など、これまで以上の支援に努めていただきたい。

<西部地区環境市民会議での総括評価>

川口、元八及び恩方（活動休止中）の3地域に分かれ個々に活動を展開している。

川口地区／川口川では、冬期に発生する瀬切れ調査と並行して流入する生活排水調査を年2回行っている。また、地元の町会自治会と連携した井戸調査では、防災対応と同期して12ヶ所の井戸水を採取しての簡易水質検査により、下流域ほど水質悪化が認められた。本調査は、今後も継続実施していく。続いて、学校と連携した活動を総合学習の時間で年5回行ったほか、事業者と連携したマイバック調査を年1回3年継続した結果、マイバック持参率は50%を超えた。

元八地区／河川では、身近な水環境の「全国一斉調査」に継続参加したほか、大沢川・城山川を関係町会と共同で清掃、又、水質調査9ヶ所も定期的に取り組んでいる。災害時の備えとしての湧水7ヶ所の継続調査では、実施測定データを蓄積している。環境省が22年実施した河川水質において、城山川、南浅川、川口川が改善度合いランキングの上位を独占した。下水道整備での河川水質の改善はされつつあるが、家庭からの生活排水がまだ河川に流入している。

<環境推進会議での相互評価>

広域な地区を3つに分けての活動は、井戸調査や湧水調査をはじめ、水質調査や河川清掃など、地元町会・自治会との連携によるものであり、大きな成果となっていることから、引き続き取り組んでいただくほか、緊急時対応や水質改善などにも役立てていただきたい。

また、マイバック調査では、独自の方法及び市との連携の二段構えで行っており、その分析結果を市民周知するなど、持参率向上につながってくることから、今後も周知徹底に努めていただきたい。

なお、河川の水質改善のためにも、上流域の未接続者に対し、下水道へ接続促進するよう声掛けなどについて、協力されたい。

<西南部地区環境市民会議での総括評価>

1. 高尾山の環境変化を見るための指標樹木の撮影や、来山者の増加で自然を失う恐れやトイレ不足等の問題を訴えた。また、旧高尾自然科学博物館跡地の「高尾の里拠点施設」に対し、自然の宝庫「高尾山」にふさわしい魅力ある施設とするよう市に提言した。
2. エコミュージアム構想に基づき、「市街編」と「高尾編」の改訂版マップを作成し、更に「地域の宝の掘り起こし」の取り組みを自然体験講座で紹介し好評を得た。
3. 池の沢館町緑地において、蛍観察会や自然体験講座を実施、また里山保全活動体験を企業向けに行い成果を得ている。
4. 河川の水質検査、大気汚染測定、蛍の復活調査をし、その結果を環境フェスティバルや市民センターまつりで展示し好評を得た。
5. ごみの分野では、レジ袋削減を目的としたマイバック店頭啓発活動に参加し、いちよう祭りでは高校生に対しごみ分別指導を行い、又、公園の落葉や生ごみを堆肥化し市民に配布した。
6. 環境教育支援として、当地区の小学校では当会の会員が中心となり支援した。

<環境推進会議での相互評価>

高尾山の自然を守るための活動や高尾山を知っていただく、既存の「マップ」の改訂など、高尾山を大切に思う気持ちを一つにして、今後も、高尾山の良好な環境づくりに取り組んでいただきたい。

また、池の沢では、企業や保全団体との連携により里山保全が図られており、モデル的事業となっていることから、各地区に波及していくことを期待する。

なお、いちよう祭りでは、独自の活動を行っており、環境市民会議を広く市民に周知する良い機会にもなるため、恒久的に参加していただきたい。

＜東南部区環境市民会議での総括評価＞

「夏休み浅川自然体験講座／イカダで川下りと生き物観察」と「秋の自然体験講座／宇津貫緑地」を実施したほか、みどりの保全では近隣自治会との連携で、独自のハイキングマップを使い地域の自然と歴史にふれ合ってもらえた。引き続き年3回の河川清掃や親子の川の生き物と水質調査や川遊びなどのイベントを通し、美しい川、親しみやすい川、遊びたい川づくりに取り組んでいる。また、ごみ組成分析結果に基づく資源物混入率の啓発やスーパーのマイバッグ利用促進の啓発活動、又たばこのポイ捨て防止のための啓発に努めた。都市の美観では、「北野駅前の定期清掃活動」を継続実施しているほか、地区の中心である北野駅周辺で、町会と連携して喫煙マナーアップキャンペーンを行った。更に、地球温暖化防止を啓発するため大気汚染測定から大気の大切さの学習やケナフの苗の配布、節電・省エネの講演会も行った。従来から定期的に行っている河川清掃や学校・事業者による定期清掃の結果が半年ごとに行っている「きれいさ評価」に表れている。また、環境市民会議のあり方について真剣に議論し、24年度計画に反映している。

＜環境推進会議での相互評価＞

各分野での継続的な活動の成果が出ていることから、今後も積極的に活動していただきたい。

また、地域の環境を身近に知っていただこうと作成された独自の「ハイキングマップ」が広く活用されるよう、積極的に体験講座を開催していただきたい。

また、初めて試みた町会との連携での「喫煙マナーアップキャンペーン」については、新たな活動のきっかけづくりになることから、継続実施できるよう努めていただきたい。

環境市民会議の活動の手本として、継続して取り組んでいただきたいと思います。

＜東部地区環境市民会議での総括評価＞

自然体験講座として、春・秋の自然観察会では22年の会場を交替して、春は「中山・鎌水地区」を、秋は「堀之内地区」を巡っての植物観察ができたほか、秋には「鎌水地区」で「巨樹・巨木めぐり」を実施した。

また、堀之内寺沢里山公園が整備され、長池公園と並んで2つの公園で公園アドプトに参加すると共に、継続して自然環境の保全と里山の継承活動を行っている。なお、3月11日の東日本大震災による「放射能汚染」問題の影響については、市や都、国の指示・指導に従った。

地区内の住民協議会が実施する南大沢と由木中央の市民センターまつりに参加して、会の活動をパネル展示したほか、南大沢地区の年3回の「クリーンデー」への参加、南大沢駅前の花壇の維持管理など地域の美化に努めた。

さらに、市立小学生を対象に行っている環境教育支援活動では、由木東、松が谷及び上柚木の3つの小学校で実施したほか、大気汚染測定や河川水質調査は継続的に行っている。

＜環境推進会議での相互評価＞

ニュータウンを抱えるこの地区では、街中にある自然がとても大切であり、自然を多く取り込んだ長池公園と堀之内寺沢里山公園はその代表的な場所である。この公園のアドプトに参加しての保全活動は重要であり、他の団体などと連携し、地元はもとより、広く市民に親しまれる良好な環境づくりに努めていただきたい。

また、自然体験講座においては、四季を上手に使うて実施しており、春と秋との演出は参加者を2度喜ばせるなど、今後も地域特性を活かした講座の実施に努めていただきたい。